第４号議案

2021 年度事業計画

部長所信　　重本 正文

１．テーマ　『未来に向けて　“そなえる”　』

　２０２０年度は新型コロナウィルスの感染拡大と２度の緊急事態宣言により、私たちの業界は大変なダメージを受けました。「人の移動」と「対面でのおもてなし」が無ければ成り立たない旅館業において、これらを制限されるということがどれだけ辛いかということを、身をもって感じました。また同時に、これまで私の精神的な支えであった同業の仲間が廃業に追い込まれていく度に、悲しみと憤りを感じずにはいられない１年でした。
　もちろん、元々の経営状況・後継者問題など、理由は様々あるかと思いますが、元来私たちの業界は自然災害・経済危機などの影響を受けやすい業種です。ただ、そういったものに負けずにこれまで営業を続けてきたことは、皆さんの記憶に残っているかと思います。

今年度のテーマである『そなえる』は、複数の意味を持っています。
①備える…「災害などの事態に備える」「新しい機能を設ける」。
②具える…「事業を継続・発展する能力を身につける」「才能を伸ばす」。
③供える…「運を天に任せる」。時にはそういった決断も必要かもしれません。

コロナウィルスによる影響は、今年度も暫く続くと思います。
付け焼刃で一時的に売り上げを伸ばすことはもちろん必要ですが、私たち４５歳以下の青年部には、それに加え未来を見据えての経営を考えなくてはいけません。コロナ終息との境目をうまく切り抜けられるよう、つなぎの役割をできればと思っています。
メンバーの業態も経営状況も様々ですので、皆さんの意見を聞きながら協力して事業を進めていくつもりです。

２．目的

規約上では、青年部は若手経営者・後継者としての自覚と研鑽に努め、旅館業界発展に寄与することが目的としています。

それだけでなく、部員の施設すべてがこのコロナ禍のもとで安全に経営・事業継承できるよう、努めて行きたいと思っています。

３．事業計画の基本方針

①勉強会

毎月の部会に合わせて勉強会や施設見学会などを実施します。具体的に申し上げると、直近ではコロナ禍における直近の経営・マーケティング手法や、補助金・助成金の制度などの学習や新規施設の見学・都内会員施設の宿泊体験に加え、コロナ終息後を見込んではインバウンド・ＩＴ・人材・災害対策など、状況にあったテーマについて学んでいく予定です。

また、正会員・特別会員・賛助会員の交流の場として、家族会・忘年会などの企画をしていきます。

②部員拡大

現在の青年部員の多くは、少子化世代になります。後継者問題が出ている施設も少なくはないかと思います。そういった施設の継続や、一人で事業を引き継ぐ方の精神面を、同世代でサポートできるように意識しております。

私自身も、まだ会社を預かっていない後継者の身ですが、親世代の皆さまにも、安心してお子様を預けられる場所を目指していきたいと思います。

③都連本部・全旅連青年部との連携

現在、青年部には本部の理事も多数おりますので、引き続き連携・協力をしていきたいと思います。また、全旅連青年部への出向者は減ってしまいましたが、可能な限り全国大会や首都圏ブロック大会には部員を動員したいと考えています。大会・展示会・新年会など、規模の大きなイベント運営を間近で見ることで、私たちが得るものは大きいと思っております。

また、東京都内の状況を関係団体に報告できるよう、定期的なデータ収集やアンケート回収も行っていきたいと考えています。